

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13382

研究課題名(和文) 兵学者の作った近世文学 武辺咄の成立と展開

研究課題名(英文) The Relationship between Buhen-banashi-Stories and Samurai in the Edo Period

研究代表者

森 暁子 (MORI, Akiko)

お茶の水女子大学・コンピテンシー育成開発研究所・研究協力員

研究者番号：50705788

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 400,000円

研究成果の概要(和文)： 武田流兵法創始者・小幡景憲の談話を集成した『景憲夜話』・『翁物語』を翻刻し、収録された逸話の傾向を明らかにした。また加賀藩初期の有力な兵学者・関屋政春の『政春古兵談』・『乙夜之書物』を翻刻し、各話の話者の特定作業を進めた。さらに政春の甥・弟子の有沢永貞らの著作も調査した。兵学者の手による近世的な武辺咄集(武士に関する逸話集)の性質、一般への浸透について一端を解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果は、武士、ことに兵学者の存在が、近世文学史上において重要であることを示すものであり、特に戦国時代以降の歴史観、人物像の形成の過程の一端を明らかにするものである。従来一部しか注目されていなかった武士の著作、また文学とは遠い存在と見なされてきた兵学者の著作について、文学研究の俎上で捉え直すことの価値を提示したことに、特に学術的に価値がある。

研究成果の概要(英文)： I reprinted "Kagenori-Yawa" and "Okina-Monogatari", which are collections of the discourses of Obata Kagenori, the founder of Takeda-ryu- military science, and clarified the tendencies of the recorded anecdotes. I also reprinted "Masaharu-Koheidan" and "Otsuya-no-Shomotsu" written by Sekiya Masaharu, an influential military scholar in the early days of the Kaga Domain, and proceeded with the task of identifying the speakers of each story. In addition, I researched the writings of Masaharu's nephew and disciple Arisawa Nagasada. I shed some light on the nature of Buhen-Banashi-syu (collections of anecdotes about samurai) of Edo period and their penetration into the general public.

研究分野：日本近世文学

キーワード：武辺咄 兵学者(軍学者) 武田流兵法 甲州流兵法 武家文化 軍書 加賀藩 近世文学

### 1. 研究開始当初の背景

武士の著作は近世文学研究において、従来一部の作品しか注目されていなかった。しかし、近世の書籍目録(もともとは本屋の使った、流通している書物のリスト)を紐解けば、そこには「軍書」(広く「いくさ」にかかわる書物)の項目があり、『平家物語』、『太平記』などの古い軍記とその解説書のほか、戦国時代を題材とした新しい合戦記や武将の一族の系譜、新旧の兵学書など、武士に関連する多様な書物が読まれていたことが知れる。その他に、もっぱら写本で流通していた軍書類も存在する。そしてそれらの書物の中には、武士の手による作品も多く含まれている。

広く読まれてきた軍書の中でも、武辺咄集(武士にかかわる逸話集)は短編の形式で豊富な話題を内包し、中には諸書の面白い話題を抽出して読みやすく整えた逸話などもあり、話題の伝播において影響力の大きかったことが推測される。実際に後世の文学作品の源泉となっている話題を含むこと、徳川幕府と緊密な関係にあった兵学者の手により武辺咄集が作られている事例が見受けられることに着目し、まとまった研究のなかったこのジャンルの影響力を明らかにする必要性を感じていた。

### 2. 研究の目的

徳川幕府成立の前後から接近し、将軍家、諸藩と緊密な関係にあって勢力を振るった、武田流の兵学者の存在が、近世の武辺咄の数々を作り上げた強力な要因だったことを明らかにすることを目的とした。彼らの活動、著作および、師弟・友人といった人的関係の分析を通して、近世的な武辺咄の成立と変容、そして一般への浸透の様相を解明する。併せて、取り上げる個々の武辺咄集についての基礎研究を成すことも目的とした。

武田流創成期に意図的に作り上げられた武辺咄の総体を明らかにし、兵学由来の武辺咄の特徴、兵学者間の交流および武辺咄の継承、武辺咄の行われた実態についても解明する。

以上を通して、近世文学への武家文化の影響力も具体的に明らかにすることも目指した。

### 3. 研究の方法

上記の目的のもと、研究の方法を3点設定した。

#### (1) 武田流兵法創成期の武辺咄

武田流兵法創成期に作り上げられた武辺咄の性質については、武田流兵法創始者・小幡景憲の談話を集成した『景憲夜話』・『翁物語』の分析を通して、その特徴を探る。特に、取り上げられた氏族や人物に注目した分析を行う。

#### (2) 兵学者間の交流と武辺咄の実態

兵学者間の交流および、武辺咄の行われた実態については、加賀藩初期の有力な兵学者で、ネットワークが軽く交友関係の幅広い関屋政春の、武辺咄集(あるいは、武辺咄を多く含む雑文集ともいえる)『政春古兵談』・『乙夜之書物』を中心に行う。これらの書物に収められた話題には、それぞれの話者が記録されている。それらの人物の特定を通して、近世の早い段階における兵学者の活動の一事例を明らかにし、この問題の解明を目指す。

#### (3) 兵学者間の武辺咄の継承と一般への浸透

兵学者間の武辺咄の継承については、先述の政春の甥で弟子でもある有沢永貞『古兵談残囊拾玉集』と政春の著作との比較を中心に、景憲の直弟子の北条氏長、山鹿素行らの著作にも目配りをしながら、師弟間における話題の継承と変化を洗い出す。また兵学者間で継承されていた武辺咄が一般へ浸透していく道筋についても目を配る。

金沢市立玉川図書館近世史料館をはじめとする、各資料を所蔵する機関において資料を収集、調査、翻刻しながら、上記の研究を進めていく。

### 4. 研究成果

本研究を行うにあたり、上記の問題意識のもと、三つの柱を立てていた。

(1)【研究A】「兵学創始者による武辺咄作成」

武田流兵法創成期に作り上げられた武辺咄の性質を探るこの研究においては、各話の整理作業を通して、特定の人物、氏族について取り上げた話題の多さや、描写のパターンなど、偏りともいべき武辺咄の傾向を浮き彫りにすることができた。

(2)【研究B】「兵学者の交流と武辺咄発生の現場」

兵学者間の交流および、武辺咄の行われた実態に迫るこの研究においては、兵学者の地理的にも身分的にも広範な交流および、対話の様相を解明しつつある。

(3)【研究C】「武辺咄の継承と一般への伝播」

兵学者間での武辺咄の継承と一般への浸透の過程を探るこの研究においては、今日では史実の如く扱われている武士の逸話の数点が、近世初期の武辺咄集由来である可能性の高いことを見出した。

本成果は、武士、ことに兵学者の存在が、近世文学史上において重要であることを示すものであり、特に戦国時代以降の歴史観、人物像の形成の過程の一端を明らかにするものである。コロナ禍により調査を中心とした研究の計画が崩れ、期間内に論文発表するに至らなかったが、この成果の公開により、武士の活動と著作について、関心が高まることが予想される。

なお、【研究B】からは、兵学者の広範な交流の中に、兵学とは異なる分野の学問の一派との繋がりも思いがけず確認することができた。近世の早い段階における武家の学問の発展について、新たな視点を得ることができた。また【研究A】により得た人物像の視点などは、期間内の別の成果で戦国武将の描き方を取り上げた際に、新たな切り口を与えてくれた。

今後は成果を論文化し、人的交流の研究をさらに広げていくと共に、余儀なくされた研究計画の変更により、期間内に特に十分に研究できなかった【研究C】を中心に、遅れを補うべく研究を進めていくことを予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 森暁子	4. 巻 17
2. 論文標題 下る物の品々―斎藤徳元『尤之双紙』の遊び心―	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較日本文学教育研究部門研究年報	6. 最初と最後の頁 18～23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計4件

1. 著者名 井上泰至、堀新、谷口克広、湯浅佳子、土山公仁、丸井貴史、吉田豊、石塚修、水野嶺、菊池庸介、桐野作人、大澤研一、塩谷菊美、金子拓、柳沢昌紀、天野忠幸、松下浩、森暁子、網野可苗、柴辻俊六、福島克彦、原田真澄、竹内洪介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 397
3. 書名 信長徹底解説 ここまでわかった本当の姿	

1. 著者名 勝又基、木越俊介、木村迪子、野澤真樹、丸井貴史、森暁子、李奕諱・クラレンス	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 592
3. 書名 諸国奇談集	

1. 著者名 井上泰至、湯浅佳子、陳イ秀、網野可苗、熊慧蘇、森暁子、丸井貴史、木越秀子、目黒将史、山本洋、曾根勇二	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 531
3. 書名 関ヶ原合戦を読む 慶長軍記翻刻・解説	

1. 著者名 井上泰至、湯浅佳子、曾根勇二、網野可苗、丸井貴史、森暁子、木越秀子、目黒将史、陳 イ秀、熊 慧蘇、山本洋	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 568
3. 書名 関ヶ原軍記の始発 『慶長軍記』を読む	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------